

6 Jomon Times

vol. 136

広報 縄文村だより vol.136(6月号)

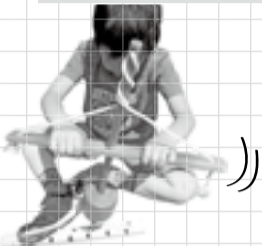
平成29年6月1日
●編集・発行●
奥松島縄文村歴史資料館
東松島市宮戸字里81-18
TEL 88-3927 FAX 88-3928



満員御礼!
にぎわう
ゴールデンウィーク企画!

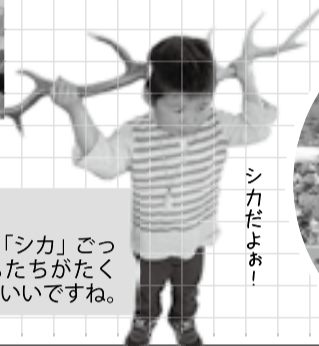
火、ついたあ!

人気だった火おこし体験。一生懸命吹いている最中、ポツと点いた火にびっくり!



形が出来てきた…!

大人も子どもも夢中の勾玉。石を削ってお守りを作ります。だんだん形になってきて笑顔に!



シカ出沒!?

今年も会場には「シカ」ごっこをする子どもたちがたくさん(笑)。かわいいですね。

シカだよ!



5月3～7日の5日間、ゴールデンウィーク企画「縄文体験・体感 WEEK!」を開催しました。県内をはじめ、東北各地や関東からも来館し、おなじみの火おこしや勾玉作り、日替わりメニューを楽しみました。

特にたくさんのお客があったのが5日に行った「入館・体験無料 DAY」。朝からお目当ての体験をする家族でにぎわい、順番待ちの列が出来たほど!この日、のべ750人が縄文体験を楽しみました。

参加者募集中!

縄文教室【全3回コース】

縄文村の長寿イベント。「縄文土器作り」「野焼き」「縄文料理」の3回コースをとおして、縄文ライフを満喫しよう!
コースを修了する頃には、りっぱな縄文人に!?

【開催日】

- 第1回 縄文土器作り・・・7月16日(日)
- 第2回 野焼き・・・8月20日(日)
- 第3回 縄文料理・・・9月24日(日)

【参加費】

- 中学生以下・・・¥1,500
- 子ども・・・¥1,000 ※3回分の料金です。

【お申込み】

TEL 0225-88-3927 FAX 0225-88-3928
mail jomon@city.higashimatsushima.miyagi.jp

4月9日(日)、今年度初のイベント「カキ養殖体験①種付け」を行いました。縄文人も食べていたカキを奥松島の海で養殖する当イベント、年々人気を集め、今年は過去最多の23組65名に!

第1回の「種付け」は、カキの稚貝がついたホタテの殻をロープに挟み「カキ縄」を作る作業を行いました。あいにくの悪天候で、船に乗ってカキ棚に吊るす作業はできませんでしたが、11月の収穫に向けて早くも期待でいっぱいの方々。「大きく、たくさん育ちますように!」

↑縄の撚りはずして殻を挟みます。

←手前に並ぶのがカキ縄。カキオーナーさんと記念撮影。



カキ養殖オーナー、過去最多に!!

もっと知りタイ! 地域おこし協力隊〈第2回〉

■問 地域おこし協力隊事務局 復興政策課地域振興班 ☎内線1233

おおばとしお
大場 俊雄さん(56)

漁業

宮戸で見つけた自分の居場所

大場さんは宮戸地区月浜の奥松島海苔生産グループ「月光」で漁業者として働いています。「まだ見習いなので、みんなの足を引っ張ってばかりなんですけどね」と苦笑い。それでも「やりたいことをやらせてもらっている今は、とても幸せです」と充実感のあふれる表情を浮かべます。

千葉県に住んでいた大場さんは、復興ボランティアとして平成24年6月に初めて東松島市を訪れました。そこで主に取り組んだのが、月光の海苔養殖再開に向けたお手伝い。養殖に使用する網やロープ作りに協力しました。

地域の人と豊かな自然に居心地の良さを感じた大場さん。東松島市で約3カ月間活動し、その後は石巻市や南三陸町、福島県などでの復興支援に汗を流しましたが、やはり宮戸のことは忘れられませんでした。

地域おこし協力隊の話を知ったのは昨年春ごろのこと。「東松島、特に宮戸に帰りたい気持ちが強かったので迷いはなかったです。すぐさま応募しました」と振り返ります。

第一次産業は以前からの憧れであり、親しんだ宮戸地区での漁業就業は大場さんにとって願ってもない環境でした。「宮戸の人は、各々の気持ちを正直にぶつけてきてくれます。いい意味で親切じゃないというか、家族的。だからとても居心地がいいです」。そこが魅力であるといいます。

夢は一人前の海苔養殖業者になることです。「年齢的にどこまでやれるか分かりませんが、ここに骨を埋める気持ちで頑張っていけます」と決意を述べていました。

